



街路樹



教師力upの素の活用～理科～

★ 出発点は自らの「問い」をもつこと ★

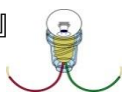
～適切な支援のために～

ある教育雑誌に次のようなことが書かれていました。「新学習指導要領では『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。では、『主体的・対話的で深い学び』ではない授業とは、どんな授業なのでしょう。子どもたちが、教師側から一方的に課題を与えられ、授業が一方的な話で進められてしまう、そして暗記中心の反復学習が進んでいく、などが考えられるのではないのでしょうか。」

理科の学習の出発点は、児童生徒自身が問題意識をもつこと、つまり学習者が「問題」や「課題」に対し自らの「問い」をもつことです。そのために教師は、身近な自然現象を取り上げたり教材を工夫したりして、子ども一人ひとりに「問い」を持たせるための工夫をしなければなりません。また、「不思議だな」「なぜだろう」といった疑問をもって自ら解決していく授業展開(問題解決学習)が大切となります。

理科部会では、以下の授業実践をアップしています。子どもたちに「問い」を持たせるための教師の働きかけや、子どもの反応の様子を見ることができます。ぜひ、参考にしてみてください。

- ・小3：『昆虫を調べよう』 『明かりをつけよう』
- ・小4：『物の体積と温度』
- ・小5：『魚のたんじょう』 『もののとけ方』
- ・小6：『電気と私たちの暮らし』
- ・中1：『水溶液の性質』 『力の世界』
- ・中3：『エネルギーと仕事』 『宇宙の広がり』

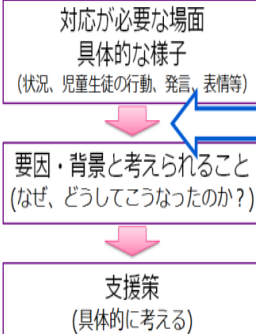


先日ご協力いただいた「発達障がいのある児童生徒を含む特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」では、いわき市内小・中学校通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の割合は約3.7%でした。学校では児童生徒一人一人の実態に応じた適切な支援について悩みながら、日々取り組まれていることが予想されます。

教育支援室では、児童生徒への適切な支援を考えるために、「児童生徒の立場に立って考える」ケース会議の進め方を提案しています。「児童生徒の立場に立って考える」ことによって多くの支援策が考えられ、適切な支援につながります。「児童生徒の立場に立って考える」とは、児童生徒に不適切な言動が見られた時に、「児童生徒が何を感じ、何を考え、何を思ったかについて考える」ことや「児童生徒がそうせざるを得なかった理由について考える」ことです。考えた支援策に取組み、その中でうまくいった取組が、その時の適切な支援となります。校内研修でケース会議を行う時に、教育支援室をご活用ください。

ケース会議の進め方

＜支援策の考え方＞



道徳科の「評価」って…?



2学期が終わり、今年度も3学期を残すばかりとなりました。道徳の教科化に伴い、先生方からは評価についての質問や不安が多く聞かれます。今回は評価について少し解説します。

道徳科の評価には大きく分けて二つあります。一つは「道徳科の授業についての評価」、もう一つは「児童生徒の学習状況の評価」です。授業についての評価は、教科の評価と同様、教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。板書の写真、授業の様子の録音・録画などで自身の授業を客観的に振り返ると、今まで気付かなかった傾向や、状況に応じた適切な対応の仕方などに意識を向けることができるでしょう。さらに、チーム・ティーチングの協力者や参観した教師から評価を得る機会を設けるのも、大変有効です。

一方の「児童生徒の学習状況の評価」ですが、各教科であれば、授業や単元の目標が達成されたかどうかを評価しますが、道徳科は違います。目標である「道徳性」が養われたか否かを評価するのではなく、学習状況を見取り、評価します。授業の中で①多面的・多角的な見方へと発展しているか②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか、といった点を認め、励ます個人内評価として行います。つまりそのような評価ができる授業を行わないことには、今回の教科化で求められている学習状況の評価には結びついていかないと考えられます。

また、指導要録に記載する「評価」と、保護者へのお知らせである通知表の「所見」は意味合いが異なることもおさえておく必要があります。具体的に分かりやすいことが求められる通知表の所見では、教材名や一単位時間での子どもの様子を知らせることもありますが、指導要録には、授業の積み重ねの中での向上的な変容を、大きくくりなまとまりで記述することが求められます。校内でも是非、先生方皆さんで道徳科について、話題にしていだきたいと思えます。NITS(教職員支援機構)のHPでも「校内研修シリーズ」として小・中学校それぞれの動画・資料が紹介されていますので、ぜひご覧ください。